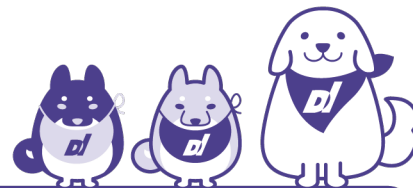




つじの しんいち
辻野 眞一

担当 就労移行支援事業所



3月の「三寒四温」が終わるとようやく本格的な春の訪れですね。毎年桜は同じようにつぼみを膨らませてくれますが、私たちの日常は毎年同じと言うわけには行かないようです。本来であれば大勢の仲間とお花見で大はしゃぎしているところなのですが・・・。

さて、春と言えば新学期、新しい教科書の臭い、新年度の計画などお正月とは違った「新」を意識する時期であります。年度の切り替えとは人々の気持ちの切り替えでもあります。そしてもう一つ「花粉症」に悩まされるのもこの時期です。桜が散ると緑が芽吹き、田んぼに水が張られ蛙の鳴き声が聞こえてくる。空は青く澄み渡りさわやかな風が頬をなでる。周囲の環境は、素晴らしく気持ちが良く、色で例えるならピンクとか水色なのに、これまで自分の中にある春の記憶はなぜか「グレー」が多いのです。それは生い立ちから来るものなのかもしれませんが、私にとって「春」とは希望に満ちた高揚感あふれる気持ちと不安や失意が入り乱れた不思議な季節なのです。私は今年で60回目の春を迎えました。人生の大きな節目でもあります。これからもこの希望と不安の季節を大切にかみしめていきたいと思います。